



巻頭インタビュー

大阪府知事

吉村洋文

よしむら ひろふみ 1975年生まれ。98年九州大学卒業。司法試験に合格し、2000年弁護士登録。11年大阪維新の会から大阪市議会選に立候補し初当選。14～15年衆議院議員、15～19年大阪市長を経て、19年4月より現職。2019年G20大阪サミット関西推進協力協議会会長も務める。

* MICE とは、会議 (Meeting)、報奨・研修旅行 (Incentive Travel)、国際会議 (Convention)、展示会・イベント (Exhibition/Event) の頭文字を使った造語で、これらのビジネスイベントの総称。

MICEで示す大阪の実力と可能性

G20を起爆剤にした関西発展戦略を語る

聞き手・編集部

——G20大阪サミットが大阪南港の「インテックス大阪」で開催されます。どのような成果を期待されますか。

吉村 メンバー国、招待国、国際機関を合わせて、三七の国や機関が参加する、世界最大規模の国際会議です。国際経済やグローバルな課題について、真摯な議論が行われ、よりよい合意ができることを期待していますし、それに大

阪府が貢献できることを嬉しく思います。

——大阪を世界にアピールする機会にもなります。

吉村 そうですね。私はかねがね、大阪を日本の一地方都市ではなく、東京と並んで東西二極の一極を担う存在にしたいと考えています。そのためには、国から何をしてもらえるか、ではなく、大阪は日本のために何ができるか、日

本をどのようにリードするか、という視点で府政を運営することが必要でし、それに見合う都市としての実力を蓄えなければなりません。G 20は三七の国と国際機関のトップが集結する世界最高水準の国際会議で、随行員やメディア関係者も含めれば、数千人の人が大阪を訪問します。それを開催し成功裏に終わらせることで、都市としての大阪の実力を世界に示すよい契機になると考えています。

歴史・文化の蓄積と最先端技術の融合

——具体的に何をアピールしたいですか。

吉村 まず、国際的なM I C Eを開催する実力があることを世界に示したいと思います。これだけの国際会議を開催するためには、国際会議場や宿泊施設、情報通信環境、交通インフラなど、いくつかの条件をクリアしなければなりません。G 20を成功させることで、大阪がそれらの条件を満たし、安心して大規模イベントを任せられる都市であることが理解されれば、大きな実績になります。大阪市長時代、姉妹都市で、かつG 20の開催経験のあるドイツのハンブルクを訪問したとき、同市長から「G 20を成功させたことで評価が高まり、国際会議の問い合わせや開催実績が増えた」と聞きました。今後、アジアの都市間で、あるい

はグローバルなレベルで、M I C Eの誘致競争は激しさを増します。その競争の中から選ばれる都市であるために、G 20の経験を活かしたいと思います。

——せっかくの機会ですから、大阪の魅力を満喫してもらいたいですね。

吉村 おっしゃるとおり、会議場の外にも、あるいは外にこそ、大阪の本当の魅力があります。それは歴史や伝統に根ざした「商都」が持つ文化や気風のようなものです。例えば、一二世紀末に武家政権の時代になっても、堺は中世イタリアのような自由都市として発展しましたし、一六世紀末には天下統一を成し遂げた豊臣秀吉が大坂城を築城し、日本の政治経済の中心地となりました。江戸時代には「天下の台所」と呼ばれ、経済や物流の一大拠点でした。同時に町人文化も華開き、懷徳堂や適塾といった官制の学問にとらわれない私塾による学問も根を下ろしました。江戸とは違う開放的な気風があり、起業家精神も旺盛です。ですから今回のG 20でアピールしたいもう一つは、大阪・関西エリアが持つ歴史・文化の力を知ってもらい、同時にさまざまなビジネス機会の獲得につながる重要な機会にしたい、ということです。

——このエリアの魅力とは、どういうことでしょうか。



G 20 首脳会合の会場となる大阪市のインテックス大阪。37 の国・国際機関のトップが集まり、グローバルな課題の解決に向けて議論する。

吉村 関西という「面」から見ると、大阪から京都、奈良、神戸までほぼ三〇分圏内で、世界的には一つの都市圏と言って差し支えありません。古代から長く都が置かれ、近代に至るまでさまざまな歴史が凝縮されていて、日本の国宝の約半分は関西にあるのではないのでしょうか。加えて、食や伝統芸能などにも特色があります。これだけ豊かな歴史・文化資源があるわけですから、ぜひインバウンド観光に役立てたい。実際、関西を訪問する外国人は急増しており、伸び率は東京よりも高くなっています。

——もう一つ、商都大阪についても伺います。



大阪・関西の新たな発展ビジョンを担うベイエリア。写真はランドマークとなっている天保山大観覧車(大阪観光局)

吉村 製造業の伝統は長く、作れないものはないと言われるほどですが、近年はライフサイエンスの分野に力を入れています。もともと薬問屋の多かったところですが、現在は最先端を行く研究機関が関西圏に集まっています。山中伸弥さんが所長を務める京都大学iPS細胞研究所が有名ですが、神戸と吹田に拠点を置く理化学研究所生命機能科学研究センターでは高橋政代さんらが網膜の再生医療をリードし、大阪大学の澤芳樹さんはiPS細胞から作った心筋細胞による心筋再生治療の開発を進めています。iPS細胞に限りませんが、さまざまなライフサイエンス分野の研究機関が集まる環境をベースに、関連する企業を巻き込みながら、大阪・関西に世界的な拠点を形成したい。そのため、大阪府として、あるいは関西としてサポートできることは、官の役割としてしっかりと果たしてゆきたいと考えています。

これも先ほどのMICEと関係しますが、例えば大阪で世界中のライフサイエンスの研究者が集まる国際会議が開かれれば、そこからさまざまな研究者同士の、あるいは産業界とのコラボレーションが生まれるかもしれません。交流自体が知的な蓄積と展開を生み出す。その意味でMICEは、観光・イベント業界だけでなく、最先端の研究やビ

ジネスを生み出す力にもなり得るわけです。

——大阪が刺激のある都市になるということですね。

吉村 研究者が「大阪には面白そうな研究がたくさんある。さまざまな知的交流を進めたい」、ビジネス関係者が「ビジネスのヒントがあふれている、ここで仕事をしたら儲かりそうだ」と思うような空気をつくりたい。そういう空気は伝播して、数字に表れない都市の魅力となるはずです。

——具体的に、何か始まっている取り組みはありますか。

吉村 「うめきた2期地区」と呼ばれる大阪駅北側の操車場跡約一七ヘクタールを、二〇二四年に「ライフデザイン・イノベーション」をテーマにした新産業創出のイノベーションセンターにする計画が進行中です。これからの私たちの生活を豊かにするために、ライフサイエンスはどのような貢献ができるか、これは都市としての大阪のテーマであると同時に、二五年に開催が決定した大阪・関西万博のテーマでもあります。

二〇二五年大阪・関西万博への布石

——いま万博の話がありました。それを踏まえて大阪の中長期的な展望を教えてください。

吉村 まず、経済発展の土台となる交通インフラの整備に

取り組めます。J・R・私鉄各線を結ぶのにわ筋線の整備や阪神高速の淀川左岸線の延伸、大阪モノレールの延伸を進めるとともに、伊丹・関西・神戸三空港を連動させた活用についても協議を進めています。

そのうえで、今回のG20に続き、二〇二一年のワールドマスターズゲームズ、さらに二五年の万博と大きなイベントが続きますので、その機会を十分に生かしたいと思います。それぞれのイベントを単体のお祭りとして成功させれば終わり、とは思っていません。

起爆剤をいかにその後の成長につなげていくか。例えば万博では、ライフサイエンスをはじめ世界の最先端技術が集結します。それを、先ほど申し上げた大阪の戦略とどのように連動させるか。その一つの形は、スマートシティということになると思います。

——大阪のスマートシティの未来像をどう描きますか。

吉村 万博のメインテーマは「いのち輝く未来社会のデザイン」です。少子高齢化に伴い、日本の生産人口はどんどん減少します。私が生まれた一九七五年の新生児は約二〇〇万人でしたが、現在はその半分以下です。四〇年前は現役世代七人で一人の高齢者を支えていたのが、いまは二―三人で一人、私が高齢者になる頃は一人で一人を支え

ることになります。これまでの政策や社会像を前提としていては、とても対応できません。

例えば、高齢者の皆さんの移動手段をどうするか。バスを走らせれば赤字になることは確実で、持続可能ではありません。しかし自動運転のバスを、高齢化が進むニュータウンを巡回させることができれば、人件費を相当圧縮できます。新しい技術を使って生活の質を向上させる。万博はまさに未来社会の実験場ですので、半年間の展示で終わらせるのではなく、その後の実用化の仕組みまでサポートしないと意味がありません。

——そのためには行政の役割も大きくなります。

吉村 府知事として、しっかりとしたビジョンと、それを実現するきめ細かい政策を示したいと思います。しかし、あわせて申し上げたいのは、現行制度の下で、これを一地方自治体だけで行うには限界があります。別に政府に助けをほしい、ということではありません。そうではなく、財源をはじめさまざまな権限を地方に委譲し、地方の自立を促すような統治機構改革が、究極的には必要になる、ということです。最終的には道州制のような形が望ましいでしょうし、「都構想」もその一里塚と位置づけています。まずはこの大阪から議論を深めていきたいと思います。●